

【異物混入】給食調理釜の底にボタン型電池、みそ汁に混入 162人に提供後に見つかる



※写真はイメージです。

愛知県岡崎市は20日、同市立大樹寺保育園の給食で提供されたみそ汁にボタン型電池1個（直径2センチ、厚さ1.6ミリ）が混入したと発表した。園児136人と職員26人にみそ汁が提供された後、調理に使う回転釜にあった残りを調理業務員が処分しようとした際に、沈んでいるのを見つけた。

発表によると、見つかったボタン型電池は調理に使う温度計用と同型で、同日、温度計の電源が入らなかったため、交換のために調理員が調理室内に持ち込んでいた。しかし、交換前に温度計が作動したため、持ち込んだ電池を回転釜の横にあったワゴン上に放置していた。ワゴン上では、鍋に移し替える作業が行われるため、その際に混入した可能性があるという。

ボタン型電池は、誤飲すると短時間で食道や胃がただれ、穴が開き、命に関わる恐れもある。市は園児や保護者らに謝罪し、異常時は医療機関を受診するように要請した。

（引用転載：読売新聞オンライン 2025/01/21 08:56 より一部改変）

食品への危害要因を意識したルールで安全文化を定着させましょう。

1月20日に愛知県岡崎市で発生した異物混入事故のものです。現場は保育園内の調理室です。調理鍋のみそ汁に調理時に温度を測定する温度計のボタン電池が混入しました。ボタン電池は、調理されたみそ汁が給食として提供された後に鍋底から発見されました。同市の報道発表では、喫食者の健康被害は報告されておらず、専門機関による見解としても、ボタン電池の液漏れの可能性は低いということでした。

調理場や厨房内に、調理に直接必要でないモノを持ち込むことは、異物混入や汚染の原因となります。この場合、電池交換を事務所内で行うことで、異物混入は予防できます。

そこで今回はこの事案から、健康被害を起こす危害要因をコントロールする一般衛生管理の運用を再確認しましょう。

原因分析のためのチェックポイント

問題となった事象	原因を考えるポイント
温度計用 ボタン電池の混入	①調理場や厨房内に異物となるモノを持ち込まないという考え方は現場で周知されていたか？
	②器具、用具の管理手順がルールとして文書化され、交換時の記録はあるか？

対策案

一般衛生管理の項目に「施設の衛生管理」があります。この項目は、「施設内を清潔で安全な状態に保つ」ことです。異物混入を防ぐためには、調理場内に不要な物を持ち込まないことが基本です。異物混入を防ぐためには、あらかじめ調理場内への持込可能品や禁止品のルールを決め、文書化して、作業員へ周知し、掲示するなどいつでも閲覧できる状態にしておく必要があります。さらに、調理場内やその周辺で使用する器具、用具は常に整理整頓します。調理に使用する器具の電池交換は、調理場以外で行いましょう。調理場の器具の増減や交換時の理由と電池の消費数も記録に残しましょう。

食品製造環境のレベルアップ

<p>提案するサービス スマイルプロジェクト</p>	<p>HACCPリーダー資格をもつ清掃ブラシのプロが、お客様のご要望や問題点を、現場を見ながら直接聞き取りし、最適なブラシや清掃道具の管理方法、防虫対策などをご提案します。お客様の品質の向上・生産性の向上はもちろん、従業員様の衛生意識から働きがいの向上にまでアプローチすることができます。食品工場で働く皆様が笑顔になるお手伝いが「スマイルプロジェクト」です。</p>
--------------------------------	---

㈱バーテックでは、このような事故の予防のため、食品製造業向けのブラシの提案だけでなく、現場の作業員から普段の清掃作業で求められている結果を得られているかなどを聞き取り、清掃マニュアルをはじめとする食品製造現場の衛生管理レベルの向上をお手伝いしています。まずは、**弊社営業担当者、またはメールアドレス（is@burrtec.co.jp）**までご相談ください。